

# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 山口県 】

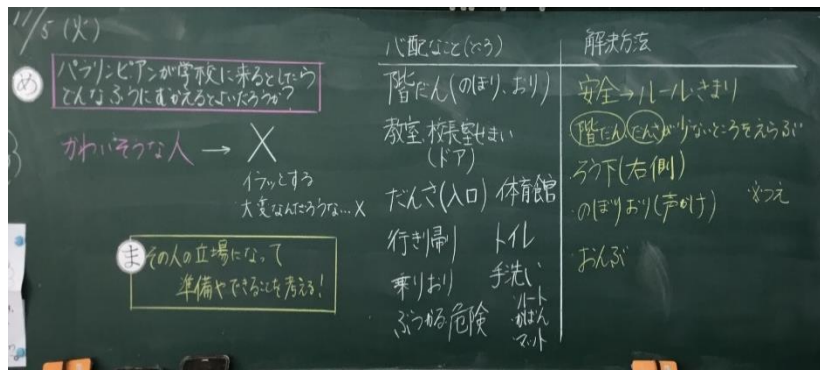
学校名【 防府市立玉祖小学校 】

1 実践テーマ	I ・ III ・ V
2 実施対象者 (学年・人数)	4・5・6年児童（4年：53名 5年：51名 6年：49名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間・特別活動（学活））</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>・パラスポーツを含む運動体験を通じて、スポーツへの関心・意欲を高めるとともに、選手が個々の思いや、自身の特性に応じながら豊かなスポーツライフを送っていることを知る。</p> <p>・パラリンピックについての学習を通じて、子どもたちが国際理解や多様な人々が共に生きる社会の実現に不可欠な他者への共感や思いやりを理解する。</p>
5 取組内容	<p>・事前学習として、「I'm POSSIBLE（東京2020教育プログラム）」を活用した授業実践を4年生以上の学級で行い、オリパラ（とりわけパラリンピック）に関する理解を深める学習の場を設定した。内容としては、当該教材に収録されている3つのテーマ（「パラリンピックの価値」（障害理解）、「パラリンピックスポーツ」（選手のキャッチコピーづくり）、「東京2020スペシャル」（クイズづくり））から各学年の実態に合わせて領域を選択して実践を行った。詳しくは以下の通りである。</p> <p>&lt;4年&gt; 「パラリンピアンを応援しよう」（パラリンピックスポーツ）</p>



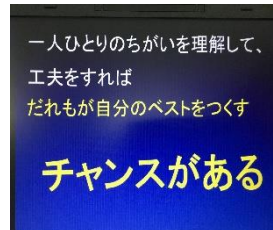
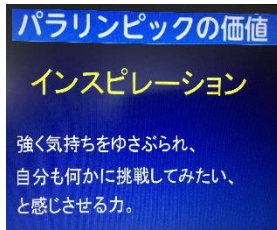
	児童の活動	教師の手立て
導入	<p>パラリンピックについて知っていることはあるだろうか。</p> <p>・2016 リオパラリンピックダイジェスト 映像資料DVDの視聴</p>	<p>○映像を見て分かったことを発表させる。</p> <p>○総合「だれもが関わり合えるように」の学習と点字・車いす・アイマスク体験などを関連付けた発表を価値づける。</p>
展開	<p>活躍が期待される選手について知り、キャッチコピーを作ろう。</p> <p>・マクファディン選手（陸上競技）</p> <p>・アウヴェス選手（5人制サッカー）</p>	<p>○映像を見て自分が素晴らしいと感じた点をワークシートに書かせる。</p> <p>○選手のよさがアピールできるようなキャッチコピーを作らせる。</p>
まとめ	<p>グループで発表しよう。</p> <p>・友達のキャッチコピーの聞き合い</p>	<p>○なぜそのキャッチコピーにしたか、その理由も発表させる。</p>

<5年> 「パラリンピアンが学校に来るとしたら」（パラリンピックの価値）



	児童の活動	教師の手立て
導入	<p>・2016 リオパラリンピックダイジェストを見る。</p> <p>・パラリンピアン（マセソン美季）が玉祖小学校にやってくるとしたらどう迎えるか、という学習課題をたてる。</p>	<p>・パラリンピックに対する興味をもつ</p> <p>・パラリンピアン（マセソン美季）がどのような人物か共通理解をする。</p>
展開	<p>・マセソン美季さんが玉祖小に来校するにあたって心配なこと、それらの解決方法について学級で話し合う。</p>	<p>・マセソンさんの来校方法や、生活手段（車いす）、校内で障壁になりそうな物について考えさせたり紹介したりする。</p>
まとめ	<p>・マセソンさんの思いを知る。（動画視聴）「かわいそうな人」だと思っ心ではなく、「困っていることはないか」と一緒に活動を作り上げていくという態度について考える。</p>	<p>・マセソンさんへのインタビュー動画を視聴させ、本人の思いに気付かせる。</p> <p>・相手の立場にたった態度のよさを話し合う。</p>

<6年> 「パラリンピックについて知ろう」（パラリンピックの価値）



	児童の活動	教師の手立て
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピックについて知っていることを話し合う。</li> <li>・22種目実施されるパラリンピック競技について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントで競技の様子を映し出し、パラリンピックに対する興味を深める。</li> </ul>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下肢不自由の女性アスリートの小学校時代の経験について考える。(ドッジボール大会、ルールの工夫)</li> <li>・パラリンピアンの思いについて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある方々に対するイメージや、自分の思いなど、児童が考えを表現する場を設ける。</li> <li>・パラリンピックの価値「公平」について考える活動を通して、“工夫すれば誰もがベストを尽くすチャンスがある”ことを教える。</li> </ul>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016 リオパラリンピックダイジェスト映像を見る。</li> <li>・本時の振り返りをワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に競技している様子、競技者や観客の表情などに着目するよう指示する。</li> </ul>

・運動体験学習として、4年「ボッチャ」、5年「フェンシング」(講演と体験)、6年「車いすバドミントン」を実施した。「ボッチャ」は山口県レクリエーション協会に講師派遣を依頼し体験活動を行った。「フェンシング」は、オリンピックである千田健太選手を講師として招聘し、講演会を行った。「車いすバドミントン」については、NPO 法人スマイルクラブより江上陽子選手を招聘し、講演及び体験活動を行った。活動の様子は以下の通りである。

#### <4年>「ボッチャ」体験



児童の活動
① ラダーゲッターのルールと投法を知り、チームでゲームを体験する。(20分)
② ボッチャのルールを知り、練習する。(30分)
③ ボッチャをチーム対抗で体験する。(40分)

#### <5年>「フェンシング」講演会





児童の活動
オリンピック（千田健太選手）による講演会（45分）
質問タイム（15分）

<6年>「車いすバドミントン」体験



児童の活動
車いすバドミンントンの実際のプレーを観る（5分）
車いすバドミンントンの体験（35分）、質問タイム（5分）

- ・各学年とも運動体験終了後には、来校した団体や講師に対して自身の学びを振り返り感想をまとめたお礼の手紙を書いた。
- ・事前学習や運動体験と並行して、図書室にオリパラに関する特設コーナーを配置し、全校児童が手軽に書籍を手にかざることができるようにした。

6 主な成果

「I'm POSSIBLE」を活用した授業実践について  
<4年>

・映像資料 DVD への児童の反応が大変よく、集中して興味深く視聴していた。オリンピックやパラリンピックの認知度は全体的に低かったが、2 学期の総合的な学習の時間などで福祉を学習していたことで、深まりと広がりが見られた。児童は、「自分の中の何が変わったか。」という視点で振り返りをする事ができた。

・児童の感想（一部抜粋）

「しょうががあるのに、4つも金メダルをとるのは、とてもすごいことだと思います。さらに、金メダルを4つもとったのに、「もっと強くなりたい。」と言っていたので、すご過ぎだと思います。「ヤサマ！」（やればできる！）を大切にしています。すごかったです。」

「しょうがい者でも、「やればできる。」という言葉大切にしていたので、わたしも大切にしていきたいです。自分ができることを見つけて、少しでも力になれるといいと思いました。しょうがい者の人も、わたしたちと同じように、ありのままに自分のすがたで生きていんだらいいと思いました。協力できたらいいと思いました。」

<5年>

・パラリンピックという言葉は知っているものの、「障害がある人のオリンピック」という理解で当初はとどまっていたが、学習を経て障害のある人の立場に立って考え、共に活動することへの意欲をもつようになった。特に、マセソン美季さんのインタビューが児童にとって印象的だったようで、「かわいそうな人と思われると、正直いらっとする」という言葉に、驚いていた。障害のある人の強い意志を感じていた。

・児童の感想（一部抜粋）

「勝手にきめつけることはいけない事なんだと思った。その人の思っている事も想像しながら接したいと思った。」

「いろんな工夫や手助けをして障害の不安や心配、困ることをへらしてあげたいなと思いました。」

「手助けするときには一方的ではなく、その人にあった助け方ができるのではないかと考えた。」

<6年>

・パラリンピックについて知識はあまりなかったが、競技の様子などを観ることによって、興味をもっていた。

・障害者の方に対して、悲観的な印象を持っていた児童もいたが、授業を通して考え方が変わった児童もいた。

・パラリンピアン競技に取り組む姿勢を観て、「自分も何かにチャレンジしたい。」とインスピレーションを受けていた。

・児童の感想（一部抜粋）

「パラリンピックがオリンピックと同じくらい熱いことがよく分かった。」

「自分だけ特別扱いはやめてほしい。」という言葉が胸に刺さりました。」

「どこか不自由でもあきらめていないことがすごいと思うし、勇気もらった。」

**運動体験教室について**

<4年>

・メディア等でボッチャを認知していたり実際に体験したりした児童もおり、体験を心待ちにしていた。ラダーゲッターを通して下投げの投法を練習することができ、スムーズにボッチャの球を投げることができていた。ボッチャが持つゲームの楽しさと、戦略を考える楽しさにも気付いていた。

・児童の感想（一部抜粋）

「体の不自由な人でもふれあえるパラリンピックがあることを知って、ほくもうれしくなりました。このボッチャ体験のように、パラリンピックを広めていったらいいと思います。」

「ぼくは、何もしょうがいがないから元気に遊んだり話したりできるけど、しょうがいがある人たちは大変なんだと思いました。だから、ぼくは、パラリンピックをおうえんして、少しでも役に立ちたいと思います。」

<5年>

・フェンシングというスポーツは知ってはいるものの競技の様子やルールなどについては知らない児童がほとんどであった。講演を通して、フェンシングというスポーツの概要や、オリンピックに出場するまでの選手の努力や支えてくれた人々への感謝の気持ち等を知ることにより競技やオリンピックへの関心も高ま

	<p>っていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の感想（一部抜粋）</li> </ul> <p>「選手たちがみんなで協力したり努力をしたりしてオリンピックに出場しているので、オリンピックは自分の力を見せる最高の舞台なんだと思った。」</p> <p>「1人だけでは成功できない」、「失敗の経験は必ず次につながる」と言っていたので、周りの人と協力し、あきらめずに失敗の経験をいかして成功させられるようにしていきたい。」</p> <p>「他の人（山口県内）がオリンピックに出るとわたしも嬉しくなるように、わたしがオリンピック出ると周りの人も嬉しくなると思います。オリンピックはみんなの支えでなりたっているんだなと思いました。」</p> <p>&lt;6年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすに乗りながらも、軽快にプレーする様子を観て、大変驚いていた。</li> <li>・車いすバドミントンを体験することにより、自由に移動することのできない難しさを感じていた。</li> <li>・車いすを上手に操作できたり、よいスマッシュを打てたりして喜んでいる児童が多くいた。</li> <li>・児童の感想（一部抜粋）</li> </ul> <p>「車いすを動かすことや打つことを同時に行うことが難しく、選手の人はすごいと思った。」</p> <p>「パラリンピック競技を体験して、もっとパラリンピックについて知りたいと思った。」</p> <p>「車いすに乗ってバドミントンするのは楽しかったけど、車いすに乗って生活するのは大変だと分かった。」</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「I'm POSSIBLE」を活用した授業実践では、教材に収録されている3つのテーマから適当な内容や領域を選び授業実践を行うこととした。その結果、4、5年生では具体的な選手や事案をもとにパラリンピック選手に寄り添ったり、当事者意識をもって学習に臨んだりすることができた。また、6年生では、パラリンピックそのものの理念や精神などについて考えを深めることができる学習となった。</li> <li>・学年毎に実施する種目や日時を分け、校内におけるオリパラ教育事業推進に係る動きの周知や気運が、児童や教職員にとってより一層強化されるようにした。</li> <li>・講師派遣を依頼した協会・法人等との打ち合わせや、細かな連絡の交換を行うことで、スムーズな運営に基づく児童の活動時間の確保等、体験活動が充実したものになるように計画、実施した。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラスポーツの体験やオリンピックによる講話は、児童にとって新たな発見を与えたり、心を動かしたりするものであった。次年度に開催される東京オリンピック・パラリンピックの期間中だけでなく、様々な場面で体験した活動を思い出したり、振り返ったりする機会を与え続けていくことが重要である。</li> <li>・講師を招聘しての運動教室の場合、限られた時間の中で児童の体験活動の時間を確保することが大切である。そのためにも校内担当者と外部組織との細かな連絡調整や打ち合わせが事前に求</li> </ul>

	<p>められる。用具の準備や進行等、学校が対応できる範疇で円滑な運営ができるよう校内で共通理解を図る必要がある。</p>
<p>9 来年度以降の 実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 来年度もオリパラ教育の推進（学習、体験活動）を行いたい。</li> <li>• 本校では本年度、パラリンピックについての学習に重点を置き実践を行ってきた。特に、「I'm POSSIBLE」の授業実践において各学年が視聴したパラリンピックのダイジェスト映像は多くの児童に感動を与え、心を穿つものであった。東京オリンピックの開催に伴い、児童の中でもオリパラに対する関心が高まる時期だからこそ、本年度本校が着手し始めた取組は継続させていくべきものだと考える。本年度は2学期から取り組み始めた実戦であるが、年間を通した教育活動について協議、計画を進めていくことも検討中である。</li> </ul>